

令和3年度 在留外国人に対する基礎調査 – 調査の概要 –

調査目的等

- 在留外国人の置かれている状況及び在留外国人が抱える職業生活上、日常生活上、社会生活上の問題点を的確に把握し、外国人に関する共生施策の企画・立案に資することを目的として実施したものの。
 - 令和2年度に引き続き、2回目の実施。
 - より充実した調査となるよう、「令和3年度在留外国人に対する基礎調査に関する有識者会議」を開催し、調査項目の決定や調査結果のとりまとめ等について、外国人に関する共生施策に精通した有識者による、専門性、高い見識、広い視野を取り入れている。
- ⇒ 調査結果を基に外国人に関する共生施策の企画・立案・実施を行うことで、「**外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ**」及び「**外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策**」の充実を図り、政府全体で外国人との共生社会の実現を図っていく。

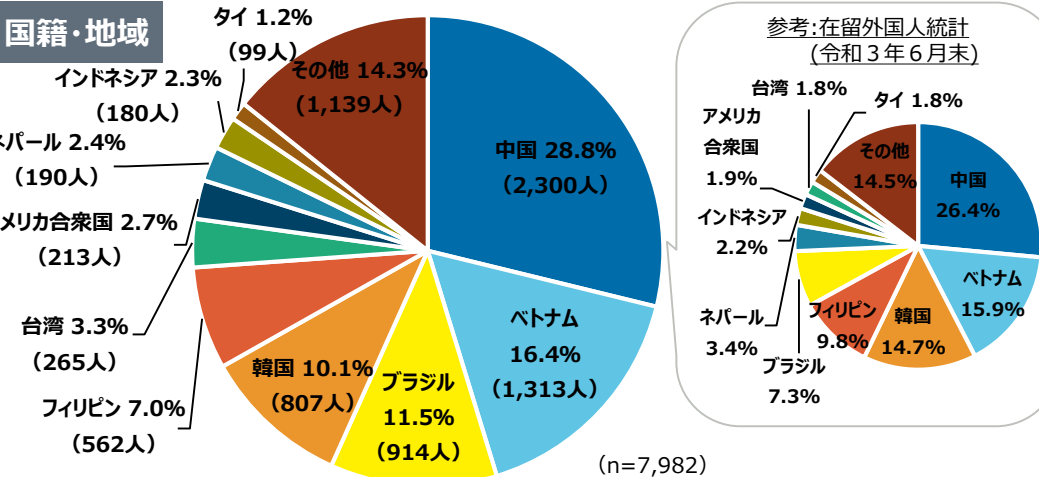
調査概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ 18歳以上の中長期在留者及び特別永住者 計40,000人 ※ 令和4年1月17日時点において、直近の上陸許可年月日から1年以上経過している者に限る。 ※ 在留外国人統計(令和3年6月末)を踏まえて決定した国籍・地域別及び在留資格別の標本数に基づき、回答対象者を無作為抽出。
有効回答数等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配布数：40,000件（うち未着分：1,572件） ■ 有効回答数：7,982件／回答率20.8%
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ Web調査（対象者にQRコード付の協力依頼状を郵送し、当該コードを読み込んで、インターネット上のアンケートに回答してもらう形式） ■ 回答画面は、8言語（ルビ付きの日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語、ネパール語）で対応。
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 在留外国人が職業生活上、日常生活上及び社会生活上で抱える以下の項目に係る問題等を調査。 日本語学習、情報の入手・相談対応、医療、災害・非常時の対応（新型コロナウイルス感染症関連）、住宅、子育て・教育、仕事、社会保険 等 ■ なお、在留外国人の孤独の実態把握を目的に、「令和3年 人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房）」（調査対象：全国の満16歳以上の個人：2万人）と同一の設問を設けた。
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年2月18日 ～ 同年3月3日
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本件調査結果は、アンケートに対して得られた回答をそのまま集計・掲載したものであり、一部の結果では回答数が限られるため、その解釈には留意が必要である。

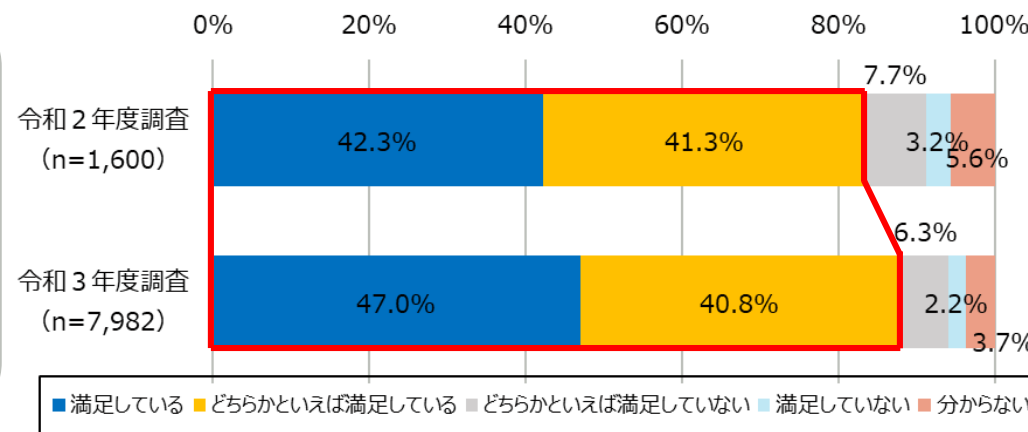
令和3年度 在留外国人に対する基礎調査 - 主な結果①(回答者属性・生活環境全般の満足度) -

- 回答者の国籍・地域は、「中国」(28.8%)、「ベトナム」(16.4%)、「ブラジル」(11.5%)の順に多い。
- 回答者の在留資格は、「永住者」(29.0%)、「技術・人文知識・国際業務」(14.4%)、「技能実習」(12.1%)の順に多い。
- 日本での生活に満足している者(「満足している」+「どちらかといえば満足している」)は、87.8%(令和2年度調査と比較すると、4.2ポイント増)。
また、日本語能力が高ければ高いほど、同割合は大きくなる傾向にある。

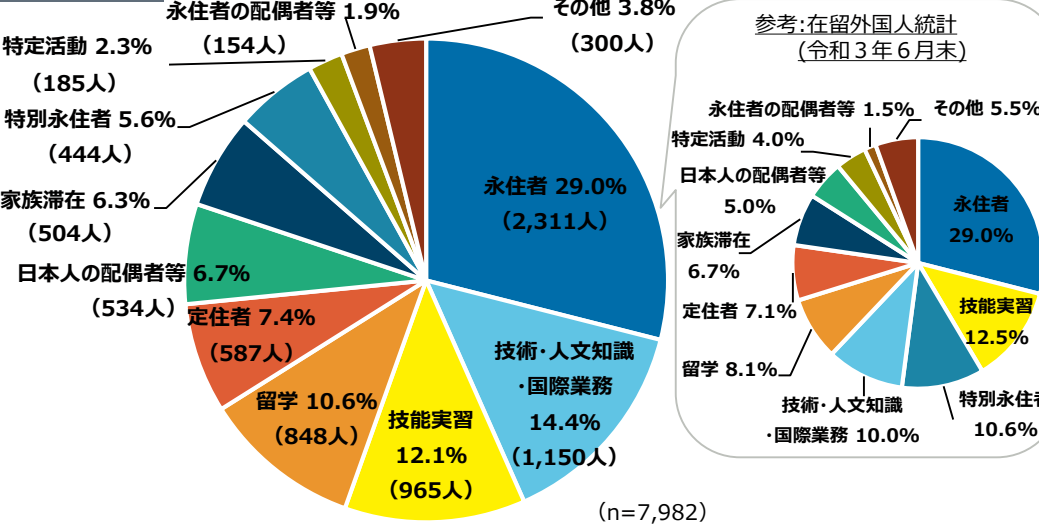
回答者の属性



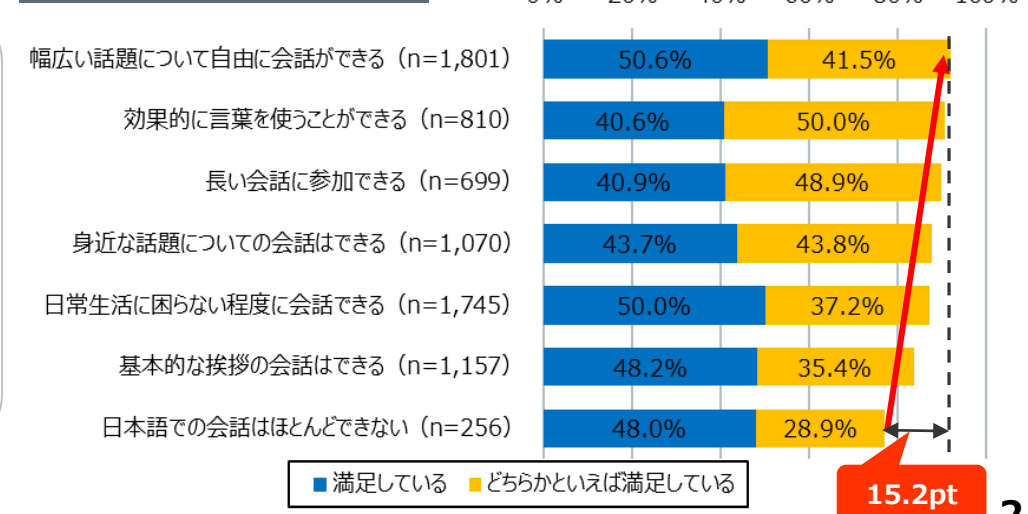
生活環境全般の満足度



在留資格



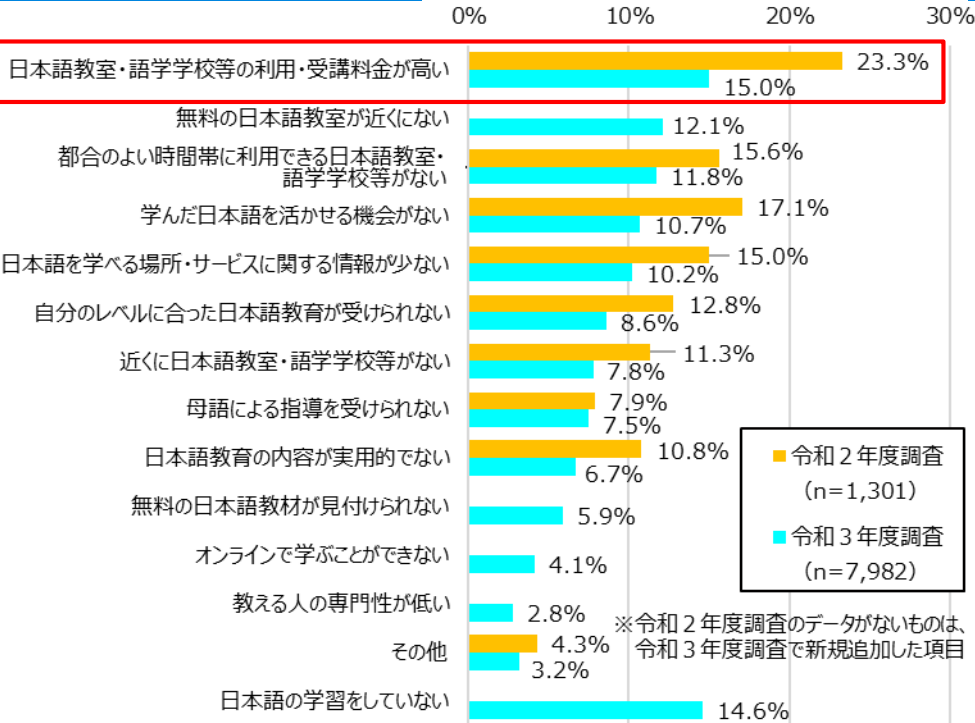
日本語能力別 (話す・聞く)



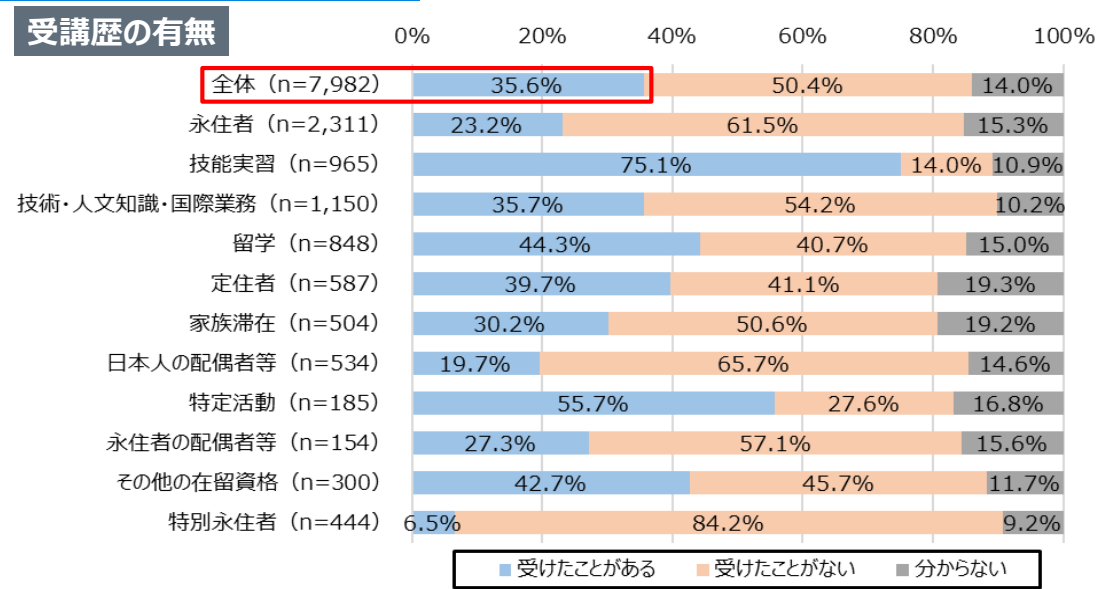
令和3年度 在留外国人に対する基礎調査 – 主な結果②(日本語学習・生活オリエンテーション) –

- 日本語学習に関する困りごとは、「日本語教室・語学学校等の利用・受講料金が高い」(15.0%)が最多(令和2年度調査と比較すると、8.3ポイント減)。日本語能力の低い者(「日本語での会話はほとんどできない」・「基本的な挨拶の会話はできる」)に限ると、「日本語の学習をしていない」が最も多く、「無料の日本語教室が近くにない」の割合も全体と比較して高い。
- 日本で生活する上で必要となる情報に関するオリエンテーション(生活オリエンテーション)を「受けたことがある」は全体の35.6%。
- 日本での生活に困らないために知っておいた方が良くと思う情報は、「税金」(57.1%)、「年金・社会保険」(56.9%)、「医療・福祉」(54.5%)の順に多い。

日本語学習の困りごと



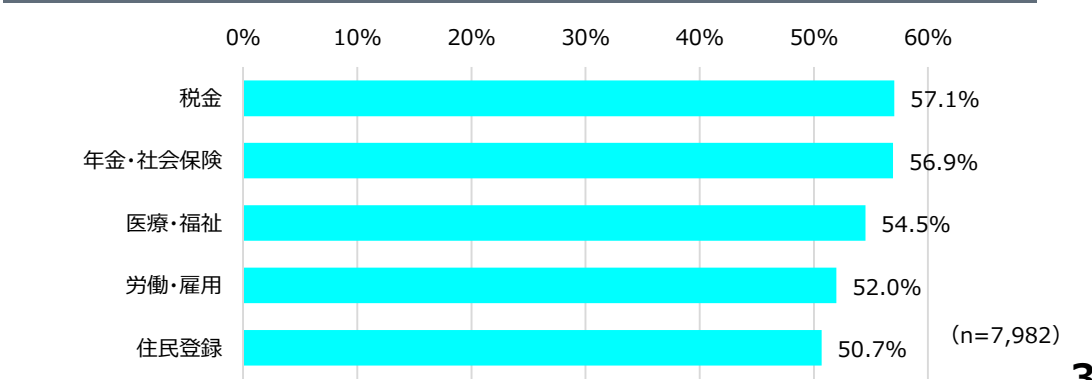
生活オリエンテーション



日本語能力別 (抜粋)

	日本語での会話はほとんどできない (n = 256)	基本的な挨拶の会話はできる (n = 1,157)
1位	無料の日本語教室が近くにない (16.0%)	無料の日本語教室が近くにない (18.2%)
2位	都合のよい時間帯に利用できる日本語教室・語学学校等がない (15.2%)	都合のよい時間帯に利用できる日本語教室・語学学校等がない (16.9%)
(参考)	日本語の学習をしていない (36.3%)	日本語の学習をしていない (23.2%)

日本での生活に困らないために知っておいた方が良くと思う情報 ※上位5項目



令和3年度 在留外国人に対する基礎調査 – 主な結果③(情報入手・相談) –

- 情報入手時や相談時に利用する通信手段(インターネット関係)は、「有料のインターネット環境(自分でプロバイダー契約)」が88.6%で最多であるが、「無料のインターネット環境(公共施設のWi-Fi等)」のみも5.7%存在。
- 公的機関が発信する情報の入手先は、「日本語のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(47.9%)が最多。
- 公的機関が発信する情報の入手に関する困りごとは、「多言語での情報発信が少ない」(34.1%)が最多(令和2年度調査と比較すると、0.3ポイント増)。
- 公的機関に相談する際の困りごとは、「どこに相談すればよいか分からなかった」(31.5%)が最多。同回答は、「技能実習」や「留学」では4割を超える。

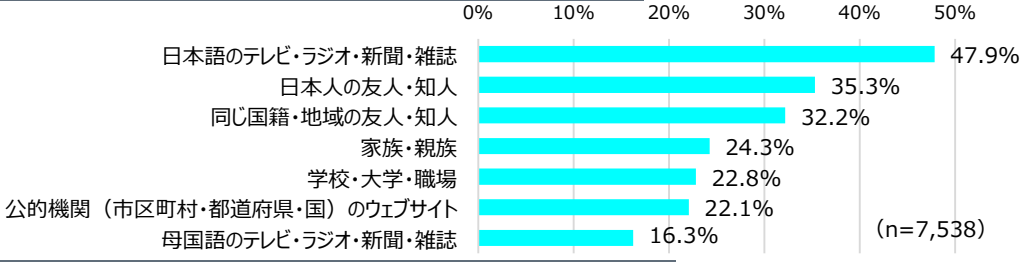
情報の入手

情報入手時や相談時の通信手段(インターネット関係)

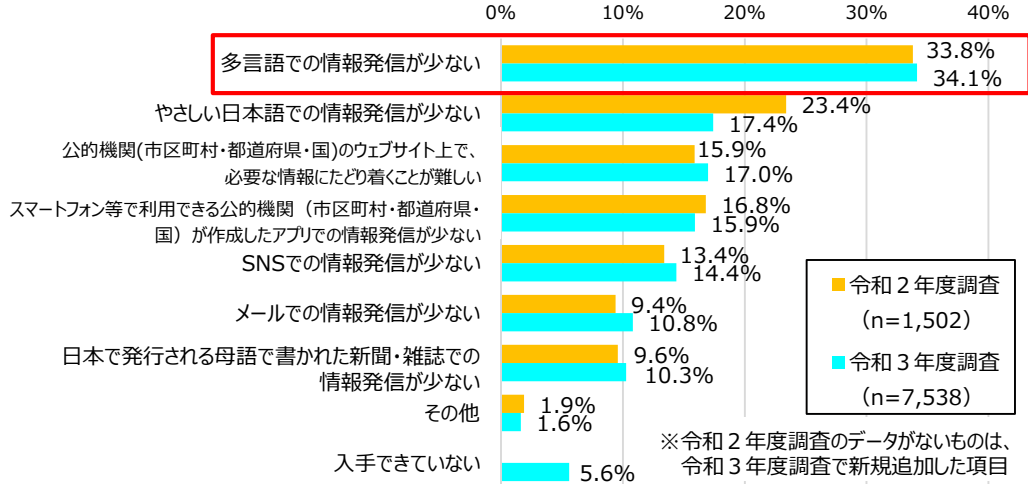
	有料のインターネット環境 (自分でプロバイダー契約)	無料のインターネット環境 (公共施設のWi-Fi等)	有料のインターネット環境 (インターネットカフェ等)	その他	利用していない
n = 7,982	88.6%	12.0% (注)	3.3%	1.0%	3.5%

(注)「無料のインターネット環境」以外のインターネット環境がない者は5.7%

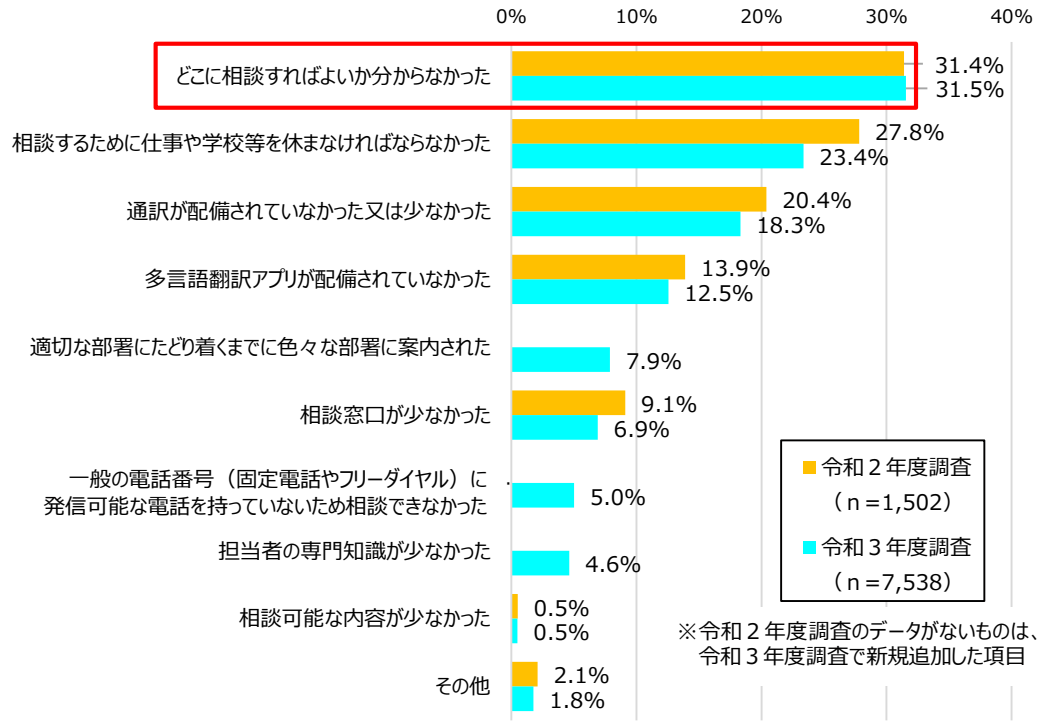
公的機関が発信する情報の入手先 ※上位7項目



公的機関が発信する情報入手する際の困りごと



公的機関へ相談する際の困りごと



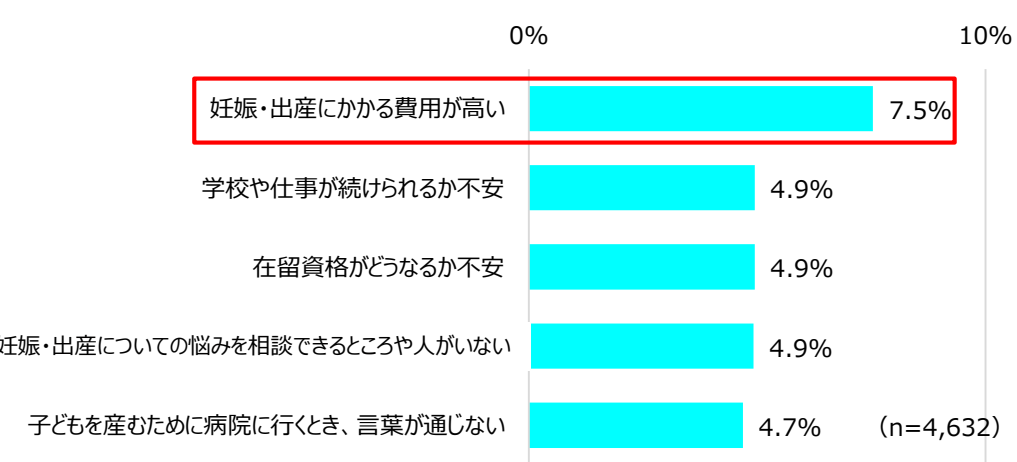
在留資格別(抜粋)

	技能実習 (n=965)	留学 (n=848)
1位	どこに相談すればよいか分からなかった (40.5%) 前年度調査 +2.3pt	どこに相談すればよいか分からなかった (40.9%) 前年度調査 +4.6pt
2位	相談するために仕事や学校等を休まなければならなかった (20.0%)	相談するために仕事や学校等を休まなければならなかった (27.5%)
3位	通訳が配備されていないまたは少なかった (19.7%)	通訳が配備されていないまたは少なかった (21.9%)

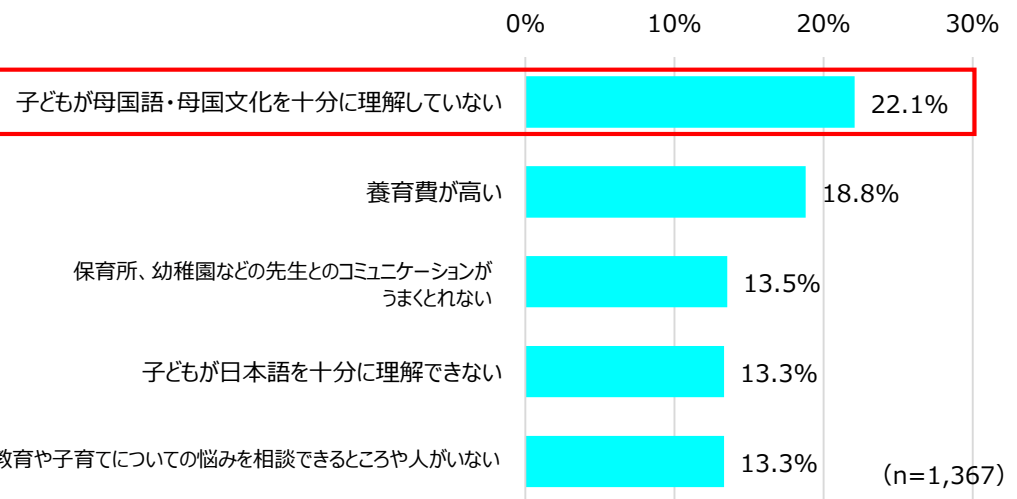
令和3年度 在留外国人に対する基礎調査－主な結果④(ライフステージ・ライフサイクル①)－

- 妊娠・出産についての困りごとは、「妊娠・出産にかかる費用が高い」(7.5%)が最多。
- 子育てについての困りごとでは、「子どもが母国語・母国文化を十分に理解していない」(22.1%)が最も多くなっている。
- 子どもの就学状況についてみると、6歳～15歳の子どもで「通っていない」は2.8%となっており、その理由は、「日本に長く住むつもりはないから」(43.1%)が最多。また、16歳～18歳の子どもで「通っていない」は6.6%で、その理由は、(その他を除くと)「働いているから」(18.5%)が最多となっている。

妊娠・出産の困りごと ※上位5項目

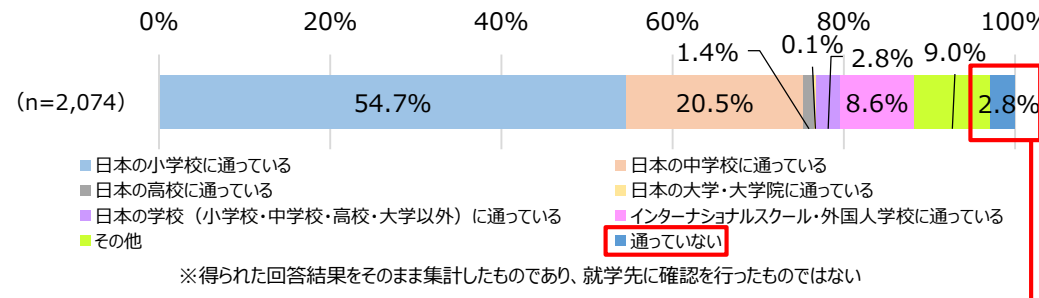


子育ての困りごと ※上位5項目



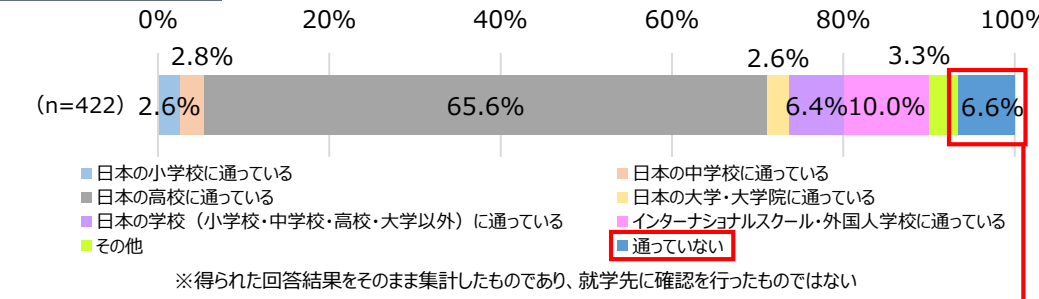
子どもの就学状況

6歳～15歳



通っていない理由 (n=58)	1位	日本に長く住むつもりはないから (43.1%)
	2位	日本語が分からないから (19.0%)
	3位	授業についていけないから (8.6%)

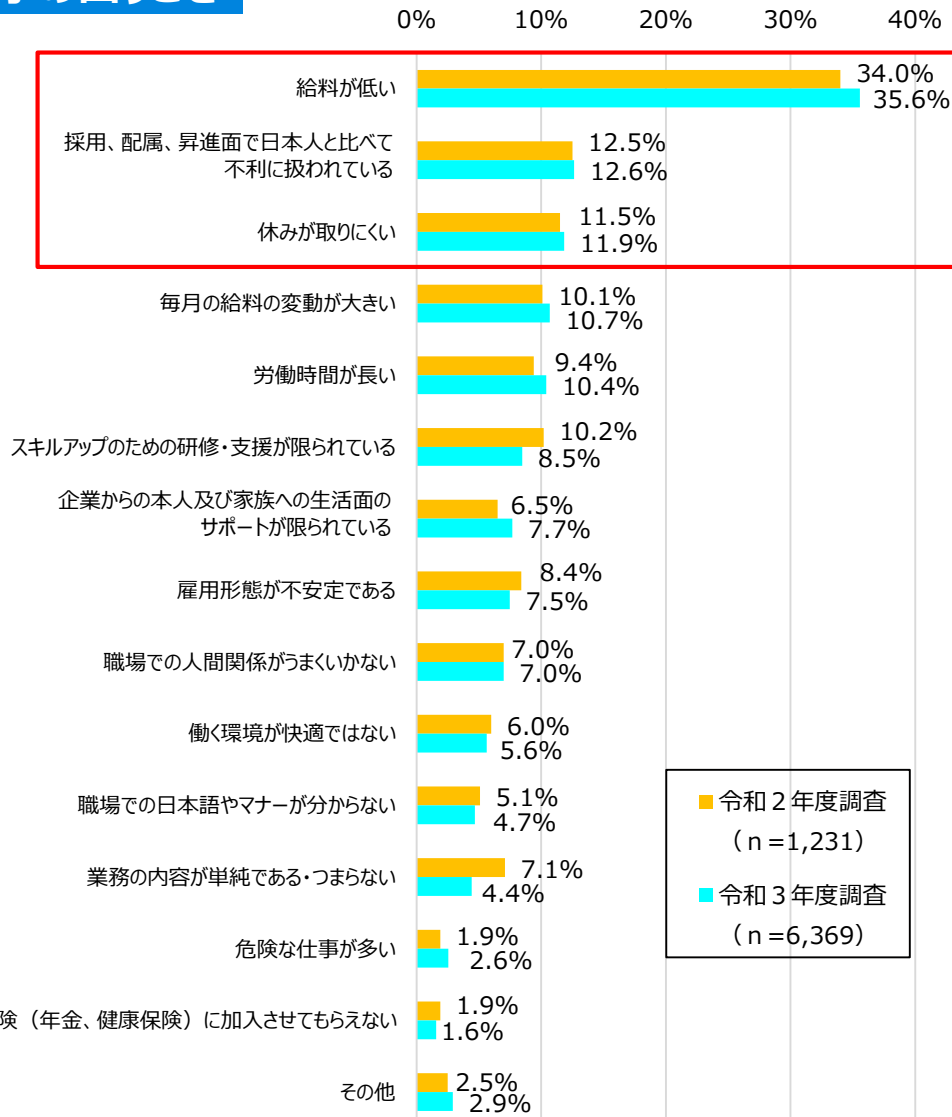
16歳～18歳



通っていない理由 (n=27)	1位	働いているから (18.5%)
	2位	日本語が分からないから (14.8%)
	3位	母国と生活や習慣が違うから (11.1%)
		日本に長く住むつもりはないから (11.1%)

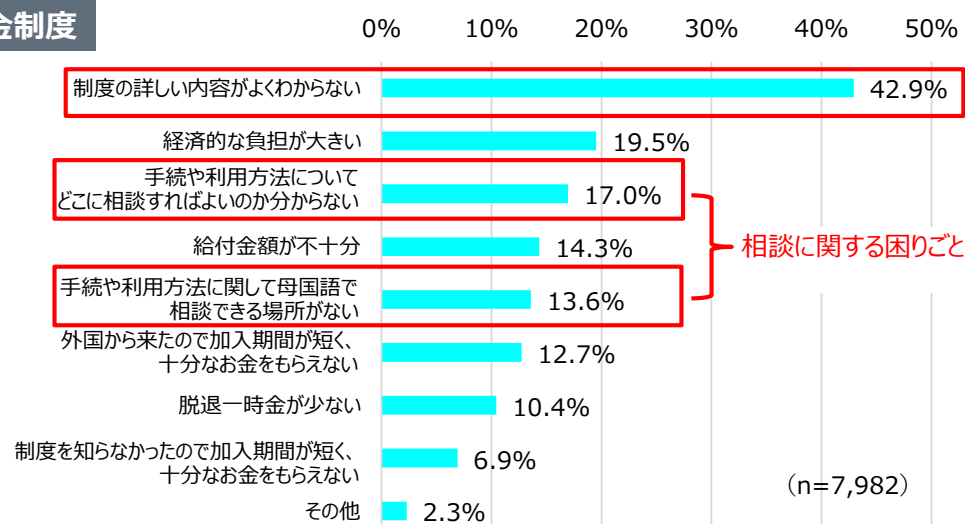
- 仕事の困りごとは、「給料が低い」(35.6%)、「採用、配属、昇進面で日本人と比べて不利に扱われている」(12.6%)、「休みが取りにくい」(11.9%)の順に多い(令和2年度調査と比較すると、いずれも増加)。
- 年金制度・介護保険制度の困りごとでは、「制度の詳しい内容がよくわからない」が4割超で最多。また、手続等の相談に関して困りごとを抱える者も一定数存在。

仕事の困りごと

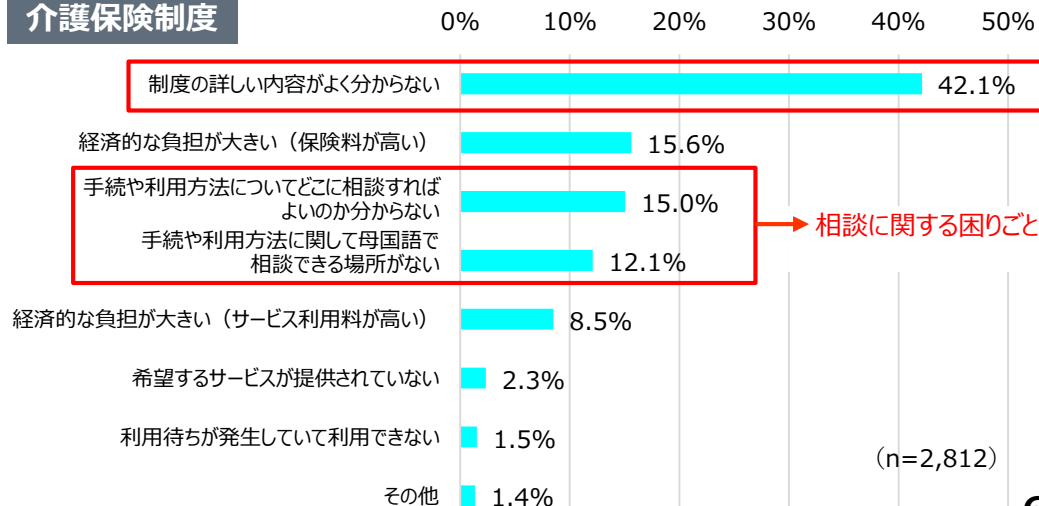


年金制度・介護保険制度の困りごと

年金制度



介護保険制度



令和3年度 在留外国人に対する基礎調査－主な結果⑥(ライフステージ・ライフサイクル③)－

- 病院で診察を受ける際の困りごとでは、「どの病院に行けばよいか分からなかった」が22.8%で最多。「留学」に限ると、同割合は4割を超える。
- 住居探しにおける困りごとは、「家賃や契約にかかるお金が高かった」(19.2%)、「国籍等を理由に入居を断られた」(16.9%)、「保証人が見つからなかった」(15.1%)の順に多い。特に、「留学」や「技術・人文知識・国際業務」についてみると、同項目はいずれも全体より10ポイント以上高くなっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響の困りごとでは、「出入国制限のため帰国できない」(36.5%)や「仕事、授業が減った・なくなった」(34.0%)の割合が高い。

病院で診察等を受ける際の困りごと

	全体 (n = 7,982)	留学 (n = 848)	家族滞在 (n = 504)
1位	どの病院に行けばよいか分からなかった (22.8%)	どの病院に行けばよいか分からなかった (40.3%)	病院で症状を正確に伝えられなかった (35.7%)
2位	病院で症状を正確に伝えられなかった (21.8%)	病院で症状を正確に伝えられなかった (29.1%)	どの病院に行けばよいか分からなかった (33.1%)
3位	病院の受付でうまく話せなかった (16.1%)	病院の受付でうまく話せなかった (20.5%)	病院の受付でうまく話せなかった (26.6%)

※特に傾向のある在留資格の結果を抜粋
 ※赤字は全体より10ポイント以上高い項目

住居探しの困りごと

	全体 (n = 7,982)	留学 (n = 848)	技術・人文知識・国際業務 (n = 1,150)
1位	家賃や契約にかかるお金が高かった (19.2%)	家賃や契約にかかるお金が高かった (39.4%)	家賃や契約にかかるお金が高かった (32.7%)
2位	国籍等を理由に入居を断られた (16.9%)	保証人が見つからなかった (32.5%)	国籍等を理由に入居を断られた (32.3%)
3位	保証人が見つからなかった (15.1%)	国籍等を理由に入居を断られた (32.1%)	保証人が見つからなかった (29.8%)

※特に傾向のある在留資格の結果を抜粋
 ※赤字は全体より10ポイント以上高い項目

災害時・新型コロナウイルス感染症の影響の困りごと

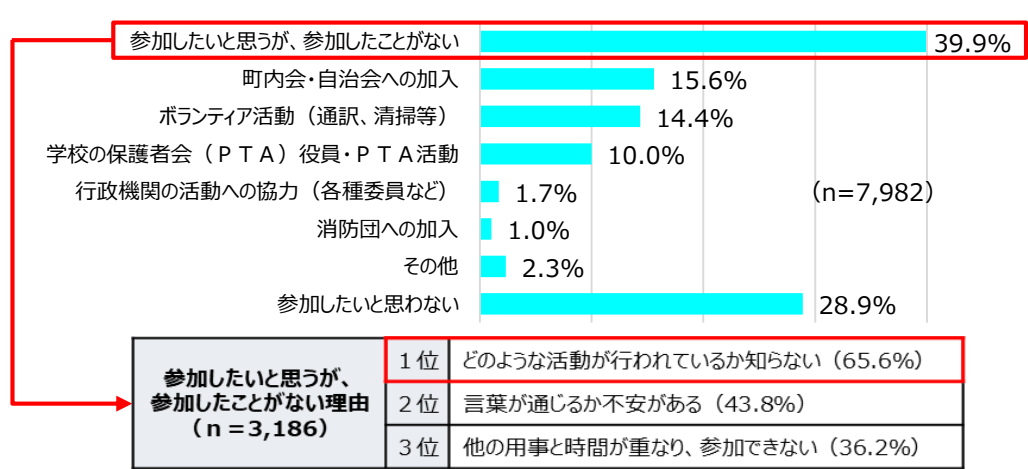
(n = 7,982)

	災害時の困りごと	新型コロナウイルス感染症の影響の困りごと		
		情報入手	ワクチン接種	生活面
1位	信頼できる情報をどこから得ればよいか分からなかった (12.2%)	信頼できる情報をどこから得ればよいか分からない (18.3%)	行政機関のHPや予約サイトが読めない (4.5%)	出入国制限のため帰国できない (海外に行けない) (36.5%)
2位	避難場所が分からなかった (10.5%)	情報の入手に時間がかかる (10.1%)	予約の際にスタッフと会話できない (3.9%)	仕事 (収入)、授業が減った・なくなった (34.0%)
3位	警報・注意報などの避難に関する情報が、多言語で発信されていないため分からなかった (10.3%)	多言語で発信されていないため分からない (10.0%)	自宅に届いた案内が読めない (3.8%)	支出が増えた (29.9%)

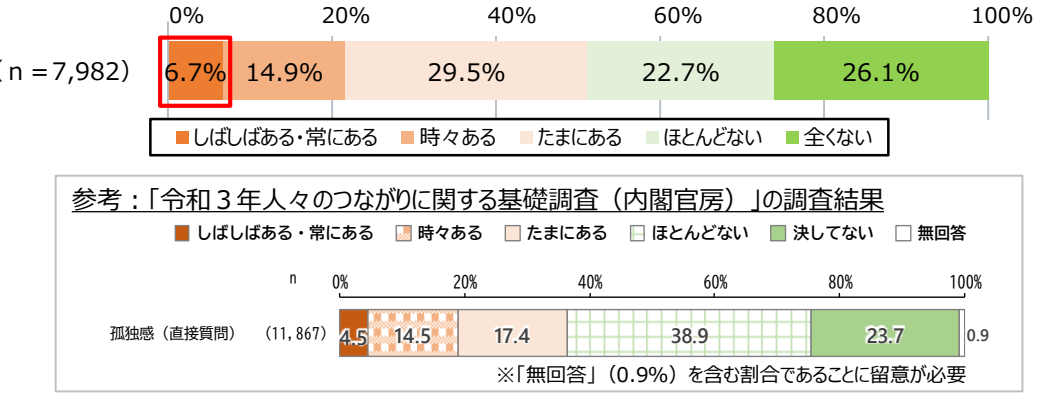
令和3年度 在留外国人に対する基礎調査 - 主な結果⑦(社会参加・差別・その他) -

- 社会参加の現状では、「参加したいと思うが、参加したことがない」が最多(39.9%)。その理由では「どのような活動が行われているか知らない」が6割超で最多。
- 差別を受けた場面では「家を探すとき」(20.6%)が、差別等に関する要望では「外国人と日本人との交流の機会を増やす」(47.6%)が最多。
- 孤独感が「しばしばある・常にある」は6.7%(⇔ 令和3年人々のつながりに関する基礎調査(内閣官房)(調査対象:全国の満16歳以上の個人:2万人)では4.5%)。「日本語での会話はほとんどできない」に限ると、14.8%と割合が2倍以上高くなっている。
- 支援に関して望むこととしては、「どこに相談すればよいかを適切に教えてくれる」が48.0%で最多となっている。

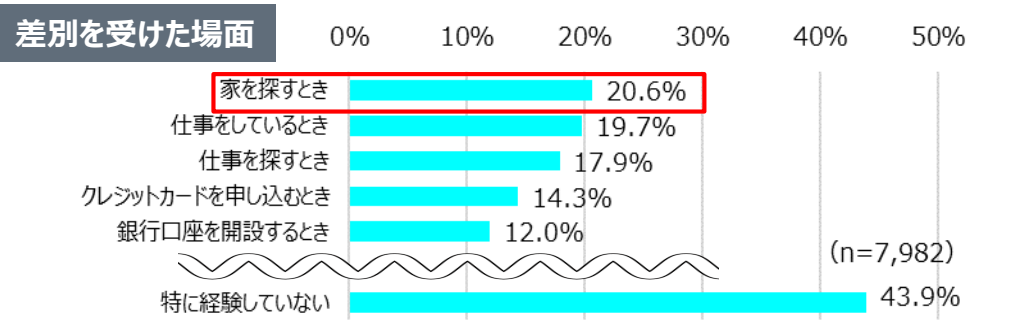
社会参加の現状



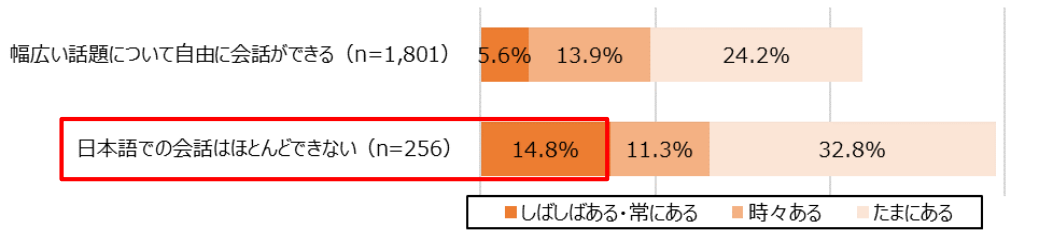
孤独の状況 (あなたはどの程度、孤独であると感じますか)



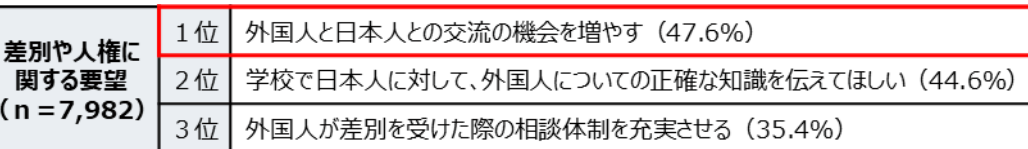
差別等の経験・要望



日本語能力別(抜粋)



差別や人権に関する要望



支援に関して望むこと ※上位5項目

